

「COYSTER」の特徴

- ・サロマ湖で生育した牡蠣を地下海水に浸してお届け
- ・菌が繁殖しにくい冬期のみ出荷
- ・殻から剥くことで（あたりやすいといわれている）抱卵した牡蠣を除外
- ・毎週ノロウイルス検査を実施
- ・24時間以上の殺菌



COYSTERの誕生

これまでで1年物の牡蠣のむき身は、湧別漁業協同組合の直営店「オホーツク湧鮮館（ゆうせんかん）」で販売していましたが、徹底した品質・安全管理のもと一粒一粒吟味して傷のない身入りの良い粒だけを特に厳選し「COYSTER」として販売することにしました。

このため、地元漁師の方々が一番美味しいと自信を持ってお薦めするのが「COYSTER」なのです。

手探りでスタートした資金調達

「COYSTER」のPRのための資金調達は、クラウドファンディングを活用することになりました。漁業協同組合が行うクラウドファンディングは全国的にも珍しく「仕組みを理解するまで時間がかなり事務作業が大変だった」と中條部長は語ります。しかし、その甲斐もあって予想以上に賛同者が多く、当初の支援目標額の50万円はすぐに達成できたため、目標額を30万円増額し、80万円に再設定しましたが、最終的には88名の賛同者から108万円もの支援金が集まりました。



◀ 牡蠣の水揚げの様子

▼ 一粒ずつ手作業で剥いている

販路拡大に向けたPR

サロマ湖産の牡蠣の多くは、主に道内で消費されていますが、湧別漁業協同組合では道外消費を促すため全国に向けたPRも始めており、平成30年2月には「COYSTERの試食イベント」を東京で開催しました。イベントでは、牡蠣や炊き込みご飯、牡蠣鍋など様々な方法で調理した牡蠣を首都圏の方々に振る舞いました。参加者からは「小さくても旨みが詰まっていて、磯臭さもなくていいからでも食べられる」、「生牡蠣が食べられなかったのに、衝撃の美味しさで生牡蠣が好きになった」など非常に好評で、「COYSTER」の魅力である品質の高さと美味しさを、首都圏の方々に十分にPRできたと感じています。

▶ 首都圏のイベント参加者も大満足



今後の取組

「全国的には広島、宮城、厚岸など比較的身の大きな牡蠣が有名ですが、身が小さくても味で勝負したいですし、『COYSTER』のブランド化の取組が過性のものとならないよう、今後も東京での試食イベントやフェイスブックなどのSNSを活用して全国にPRしていきます」と中條部長は力強く語ってくれました。

道外ではあまり認知されていないサロマ湖産の牡蠣ですが、牡蠣といえばサロマ湖産の「COYSTER」、そんなイメージを全国の人たちに定着させる取組は、まだまだ始まったばかりです。

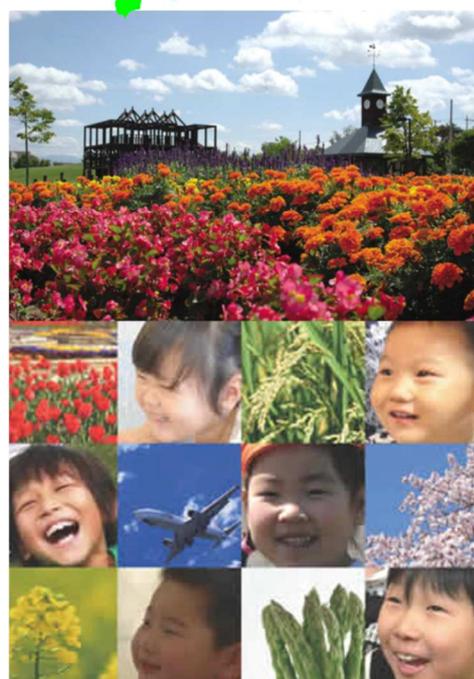
サロマ湖の漁師が恋した小さな牡蠣「COYSTER」にあなただも恋してみませんか？



▶ 湧別漁業協同組合 直販部長の中條勝之氏



ひがしかぐらちょう
東神楽町



人口が増え続けているまち

～ 子どもの割合 15年連続北海道No. 1 ～

人を呼ぶ魅力とは

東神楽町の人を呼ぶ子育て支援については、主に4つの特徴があります。

☆① アクセスに優れたまち

道北の中核都市である旭川市に隣接しており、旭川空港から東京などへのアクセスも良く、住みやすさ、利便性に優れています。

☆② 安心して子育てができるまち

東神楽町では、中学生までの子どもに対する医療費の無料化、また、町内に高校がないため高校生の通学費助成などを行っています。また、待機児童を無くすために、平成24年から保育園の定員の拡大、認可外保育所の利用助成などの取組を行った結果、待機児童ゼロを実現しています。

☆③ 多様な子育てができるまち

子ども発達支援センター「おひさま」を隣町の東川町と共同運営により開設しています。子どもの成長過程で言葉や運動面の発達に不安を感じたとき、気軽に相談や指導を受けることができます。

☆④ 希望を持って子育てができるまち

高齢者サロン、学童保育、子育て支援を一体化した施設として「ばれっと」と町立体育館に併設の「これっと」を開設

北海道の中央部にある大雪山のおもとに位置し、道北地域における空の玄関口、旭川空港を有する東神楽町。人口約1万3百人の稲作が盛んなこのまちでは、40年連続で人口が増え続け、子どもの割合も15年連続で道内ナンバー1。全国的に人口減少が叫ばれる中、東神楽町がどのようなまちづくりで人口増へとつなげているのか、その取組についてお話しを伺いました。

(取材者 貝澤 中山 橋場)

し、地域や世代を超えた交流を行うことができます。

また、学校・家庭・地域・学識経験者からなる学校運営協議会を町内全ての小中学校に立ち上げ、4者一体となって地域が目指す子ども像を明確にしながら、共通理解のもと、地域ポランティアによる読み聞かせや農業体験など各地域の強みを生かせるような特色ある教育に取り組むためにコミュニティスクールを導入しています。

人口増の要因は

「子育て支援と教育施策の充実」

子育て世代の方々に子育てや教育支援などの様々な施策を打ち出すだけではなく、政策同士の歯車をかみ合わせ、将来設計がしやすい環境づくりにつとめています。

また、実際に教育分野では、平成29年度全国学力・学習状況調査において全国平均、全道平均を大幅に上回る結果となっており優れた教育環境にもあります。広大な自然環境に囲まれ、整備された街並みで子育てを行えることが、東神楽町に住んでみたいと思わせる魅力につながっていると感じています。

分析 結果に結びつけるために

限りある予算を効率的に活用し、最大の効果を目指すことを常に考えています。そのために、計画だけで終わらせず、スピード感を持って各施策を実施の上、成果をチェックし、成果の出ないものは事業改善や廃止を行うなど、PDCAサイクルを意識しています。また、先進的かつ充実した内容の施策を行うだけでなく、点として打ち出した施策を線として結びつけ、赤ちゃんから中学生までストーリーがある、一貫した子育て・教育を行い、移住者呼び込むだけではなく、住んでから更に子育てを行いたくなるようなまちづくりに努めています。

平成29年に実施した東神楽町総合計画町民アンケートの項目中で「今後も東神楽町に住み続けたいか？」との問いに対して、「他の町に移り住みたい」と答えた人はわずか5.7%であったことから、高い住民満足度につながっていると感じています。

課題 東神楽町の未来を見据えて

現在は、町内の住宅地が不足してきたため、住んでみたいと思う人がいても、実際に居住できる土地が限られている現状にあります。そのために、アパートの建設や空き家対策の支援、住宅リフォーム費用助成などを実施し、移住者の受け皿を増やす取組を実施しています。

また、ヘルスケアの取組として平成28年度からは（株）タニタと連携し、健康食育タウン事業として「ひがしかがら健康くらぶ」を設立しました。

この中で「はかる」から始める健康づくりとして、町内4か所の公共施設に活動量計の計測スポットとして「健康の駅」を設置し、町民一人一人が一日の総消費カロリーや歩数のほか体の変化を体組成計で計測し、そのデータをタニタに送信することで「からだカルテ」に記録され、自らの健康管理に役立てています。

さらに、平成29年度からは、総消費カロリーや歩数をポイント化し、貯まったポイントで町内の温泉宿「花神楽」の入浴券やごみ処理券などをプレゼントする「健康ポイント制度」を導入し、町民の健康寿命の延伸や医療費の適正化など、町民全体での健康増進活動にも力を入れています。



▶ 子育て支援について語る
東神楽町教育委員会
前教育長 水野和男氏



りお 莉緒ちゃんママに伺いました！
東神楽町での子育て、本音ではどう思っていますか？
IN 地域世代交流センター ぱれっと

東神楽町を選んだ理由は。

旭川市の近辺で住むところを探していましたが、隣町の東神楽町は子育てに力を入れていることに魅力的に感じました。

東神楽町に不足していることは。

町内に高校が無いことです。今回移住を決めた際には、それも視野に入れ、できるだけ近隣の高校へ通学しやすい場所を選びました。

実際に住んでみた感想は。

子育てがしやすいと感じています。子育て支援の助成金も充実しており、小児科もあるので、生活に不便を感じていません。

これからの東神楽町に求めることは。

普段の生活には不便はありませんが、子育てをしている母親が働ける場所が増えてくればより良いと思います。